

2022年度 成果

岩手県の海洋環境保全活動事業に参画していることや、市町村との連携が進んできたことにより、「海と日本プロジェクト」の趣旨・活動が県や市町村にも浸透してきている。各地で事業・イベントを開催するにあたって、行政機関の協力がスムーズに得られるようになった。さらに行政からのお墨付きをもらうことで、各地の産業・環境・教育に携わる団体からも、より協力を得やすくなった。

オリジナルイベントでは、自治体・観光協会・町おこし団体からの施設提供面でのサポート、地元ダイバー団体からは体験学習のフォローをいただいたほか、地元水産加工会社と学びの成果物としてコラボ商品を作成するなど全面的な協力を受け、学習の深度をより深めることができた。

普代村では「『燈の守り人』昆布ソフト」が道の駅で販売。活動実績および企画趣旨への賛同から、岩手を代表する銘菓「かもめの玉子」とのコラボにもつなげることができた。



「いわてマリキッズプロジェクト」

マリキッズでは初めて海に入り、シュノーケリングを実施した。子供たちが描いた大漁旗は、商品パッケージに使用された他、大船渡市の大漁旗コンテストに出品、地元新聞記事に掲載。



「オリジナルさんまドリア」

「いわてマリキッズ」とコラボ。イベントの参加者が店頭PR会に参加して商品を販売した。



「海プロコラボ 郷土菓子」

岩手での海プロの活動実績を受けて企画趣旨に賛同した老舗菓子メーカーと看板商品「かもめの玉子」でコラボを実施。

2023年度 目標

岩手県での海と日本プロジェクトの認知度は向上してきているが、さらに多くの人に海に関心を持ってもらう必要がある。特に広い面積を持つ岩手県では、内陸部に住む人々を中心に海に触れる機会が少なく、海への関心はまだ薄い。未来に渡り「岩手の海を大切にしたい。」という機運を広く醸成していくため、内陸部の小学生をはじめ若い世代へのアプローチに力を入れる。全県的な取り組みとなるよう教育委員会と連携して副教材を作成・活用するなど学校現場での海に関する学びを充実させる。また、企業との商品連携などコンテンツ作成にも力を入れ、生活者が実際に目に触れ、手に取る機会を増やしていくよう取り組む。

活動の課題と一般社団法人化で実現していきたいこと

活動全般において、一時的な取り組みではなく、県民一人ひとりが自発的かつ継続的に海に関するアクションを起こしてもらうための取り組みが必要である。一般社団法人化で、これまで協力をいただいていた行政機関に加え、より多くの民間企業や団体を巻き込み、より広範囲の「官民一体」での活動で海と触れる機会を充実させていく。また、教育委員会と連携をすることで、学校現場を含め、海に関する学習を充実させたり、企業と連携をすることで「アクティビティ」や「食」を通じた海に関する「体験」をより増やしたりし、岩手の海を守っていくためのアクションを起こしてもらう機会の拡充を図っていく。